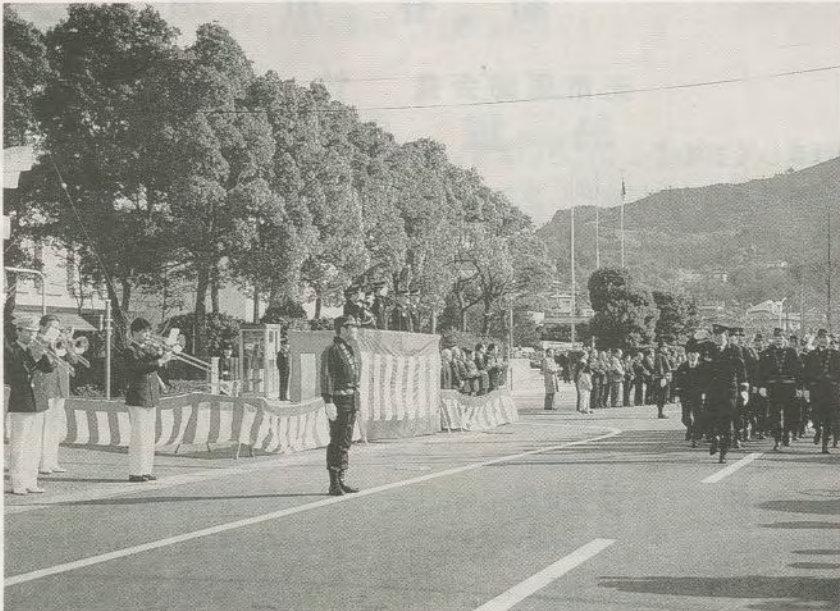


光市医師会報

平成2年1月号

No. 207



出初式

光市医師会



謹しんで

新年のお慶びを

申し上げます



新春所感

光市医師会長 竹中昭二

明けましておめでとうございます。皆様方には御健勝のうちに新らしき年を迎えられた事と拝察致し、心よりお慶びを申し上げます。

還暦を越しますと私には一年の経つのが一段と早くなる様な気がして、毎年初めには「今年こそは………」と決意を新にしますが、一年を振り返ってみますと、無為徒食に終わった感じがしてなりません。特に「光陰矢の如し」の感を深くするのみです。

さて、本年は医療法の改正、老人保健法の改定等、日本医療の大きな曲り角に直面する年でもあります。我々第一線の開業医に具体的にどの様な変革が行なわれるのが非常に不安定要素を含んでいるものと危惧の念を抱いております。又四月頃には医療費の改定が行なわれると云う事であり、改定枠も薬価基準の切り下げ等と重なり実質1%のアップで、医療費圧縮の為の改定と云はざるを得ない状況で、大きな期待を寄せるのは無理な様です。

検診関係に於ては、老人保健法による基本診査に一昨年より乳癌検診が導入されま

したが、ゆくゆくは大腸癌検診等に巾が拡げられ、又労働基準法による産業医の行う検診業務も拡大強化される事になり、日常診療の傍ら検診業務に追われる状況に立ち到るかも知れないけれども、我々も検診業務に意をそそがなければならない時代になってきつつある事を認識し、実践すべき課題であると思われま。

又昨年は消費税に明けて、消費税に暮れた一年でした。その尾を引いて今年の早い時期に衆議員の総選挙が行われる事でしょう。消費税の事のみでなく、我々第一線の医療人の要望を国政に反影させる絶好のチャンスと思われま。医政連盟の一員として、医療に関して造詣の深い、又理解ある人を国政の場に送り込みたいものです。

選挙と云えば今年は日本医師会を始め、県、都市医師会の役員選挙の年であります。殊に当光市医師会は昭和63年12月臨時総会に於て改定された新定款による初めての役員選挙であります。光市医師会の益々の発展、活性化を図り、充実した医師会活動を実践してゆく為、漸新強力な新役員の

選出される事を大いに期待しております。

ここ数年来毎年の様に良き先輩、良き友を病魔の為に失い、哀惜痛痕まことに残念でなりません。高齢者社会と云う名の示す如く、医師会にもヒタヒタと押し寄せる波は如何とも為しがたいものですが、会員の皆様方には十分に健康管理に務め、ストレスをはね返し、実年の名にふさわしく、今年もお互いに元気に頑張りましょう。

いずれに致しましても、我々は医の倫理

をふまえ、A・B会員の相互の理解を深め、親睦の実を暖め、地域住民の健康、医療ニーズに充分にこたえるべく、堅い結束のもとに医師は医師らしく団結しましょう。

「一年の計は元旦にあり」と申します。会員の皆様方如何御計画をおたてでしょう。この一年、夢と希望にあふれる年でありませう様に、会員の皆様を始め、御家族様の御健勝と御多幸を祈念し年頭の御あいさつと致します。

年 頭 雑 感

光市立病院院長

板 垣 省 三

竹中会長が年頭のご挨拶をのべられるのにならって、小生が又同じ言葉をならべるのはおこがましいし、又芸がなさすぎるので、今年もよろしくとだけ申しあげさせていただきます。皆さん、とみに白髪を増してこられたことが、年末の忘年会でのいつわらざる実感でございます。何か書けとのお仰せですが、今年で55才、あと4年で年金受給者となることを考えれば、光にきての14年も又同時に小生の医師生活も後半を深く進んでいることと再認識するこのごろですが、最近はとみに記憶力のおとろえが目立ち、今后どの速度でどこまでおとろえていくのであろうかと日々憂えております。年をあらたにし、つい今までのたどってきた過去をふりかえるのは感傷というものでしょうか。宇部に生れ大学をでるまで宇部を離れずしまいだった自分が坂本龍馬もどきに故郷をとび出し東京にてたのが32年まえ、国立東京第2病院でお

前長州人かと九大出の久保という部長に大へん世話になり、氏のすいせん状をもらってハワイ・クアキニ病院行きがきまった矢先、第1回のECFMG試験（目的はどうも東洋系医師のアメリカ入りを制限することにあつたらしい）に失敗してオジャン。

慶応の医局に入るようにとの誘いをことわって故郷にかえり、当時、東大の小林と同時に京大で日本初めての心臓カテーテルをはじめた教授に師事して、直系の仕事を9年間、一ども外の病院にだしてもらえず夜11～12時まで、こきつかわれて、あるときはルートにのったかと思ったりもしたが、ご存知のごとく魅力のない男で、いつの日か教授にきらわれる男になり下りチョン。心臓学・心肺機能・さい近では肺性心の臨床という名著の片隅にチョコッと名前をのせていたゞけたのがせめてのなぐさめか。追われるようにして国立下関病院へ教室の意にそむいてふ任したあくる日、一番下に

ついていた内科の小生の名札が、いつの間にか上から二番目につけかえてあった。当時の内科は九大系6人、山大系1人であった。

それからの5年間は今でも交際をつづけている間柄である。ときには場末の飲み屋のネーちゃんをつれて山にいたり、けっこう楽しい5年間であった。そのころ、本庶先生にとつぜん、セントルイス大にいた現在大分大の教授をしている某君のあとにつづいて行かないかの声がかゝったときは、二度と山大の世話にはならんと心に決めていただけにうれしかったが、すでに学問への情熱まったく失せており、けっ局お断わりしたが、それ以来頭があがらず、つよく招われるまゝに光に来てすでに14年にもなったわけだが、これでも病院かと思うほどのつぶれかけていた病院も、その後、運よく濃川・香津・五嶋・赤崎そして横山各先生の順にねづよく住みついてくれた一クセも二クセもある仲間に出あったことは本当に恵まれたとしか云いようがなく、彼らが病院再建の基盤になったことは周知のところである。その間、多くの先生が短かく出入りしたが、中には光に来たとたんに、こんなボロ病院に回されたとなげき任期のおわることばかり待っていたものもいたが、そうじて出世したという話とはんとときかない。

光医師会の皆さんの心暖まる後追しをいただいて病院が現在あることも決して忘れられない。今後も同じ医師仲間、一次医療は医師会で、二次治療は市立病院でと鮮明に色分けして病診連携をモットーに手をとって今後のますますきびしい医療情勢をつきすすんでいきたいと思うわけです。

皆さんの益々の御健勝をねがってやみません。

医師会月間行事

平成元年12月度理事会

12月5日(火) 午後6時40分～

於 小蜂寿司

(出席者) 竹中会長、福本副会長、富恵、丸岩、赤崎、梅田、藤原、吉村理事

議 題 (報告・協議事項)

- 1 (来年度の市への要望書の件
(福本副会長)
- 2) その他
 - イ) 医療行政資料調査センターの件
 - ロ) 三市会予算の件
 - ハ) 事務局員の賞与の件
 - ニ) 労務担当理事協議会の報告
(梅田理事)
 - ホ) 医師会旅行会計報告 (梅田理事)
 - ヘ) 麻疹ワクチンの購入に関する件
 - ト) 某新聞に掲載された医師批評に対して医師会からの投稿に関する件
 - チ) 医師会報ルーズリーフ作製の件
 - リ) 2月の講演会の件

心電図研究会 (第18回)

下松・光市医師会合同

12月15日(金) 午後7時30分～

光市立病院講義室

演 題 「心電図の読み方」

講 師 徳山中央病院 河野隆任先生

(症 例)

①心臓炎—左胸部痛 74才 男性

②収縮性狭心症—胸部絞扼感発作
56才 男性

平成元年12月度月例会

12月14日(木) 午後6時30分～

於 光総合結婚式場

(報告・連絡事項)

- 1) 郡市医師会正副会長会議の報告
- 2) 某新聞に掲載された医師批評に対する医師会の対処の経過報告
- 3) 長崎県警察本部からの捜査協力方依頼について
- 4) 第22回山口県学校保健研究大会の開催について
- 5) 組保管掌健康保険被保険者証の更新について

忘年会

12月14日(木) 月例会終了後

於 光総合結婚式場

梅田理事の開会の挨拶、竹中会長の挨拶、田尻先生の乾盃の音頭と続き、和やかな宴が催される。福本副会長の万才三唱で閉会。



光市・県医師会関連行事等出席

- 1) 郡市正副会長会議
竹中会長) 出席 12月7日
福本副会長) 県医師会館
- 2) 結核審査会
福本副会長出席 12月21日 徳山保健所

光市学校医研修会

光市学校保健研修会

平成元年12月19日(土)

午後13時30分～15時30分

於 新日鉄労働福祉会館

[演題]

- 1) 「アトピー性皮膚炎と食物アレルギー」
牛島診療所長 藤山純一先生



- 2) 「健やかなからだ、しなやかな心を育てる食事」

(子供達の食生活の現状と体への影響)

山口女子大学教授 奥田義博先生



[対象]

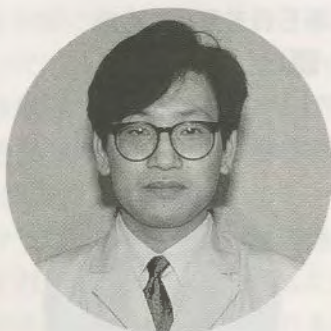
学校医、歯科医師会、薬剤師会、学校長、養護教諭、保健主任、栄養士、PTA、他郡市の学校医、教育関係者

(主催 光市医師会、光市学校保健会)
(後援 光市教育委員会、山口県医師会)

新入会員紹介

清水敏昭先生

光市立病院耳鼻科



略歴

昭和61年6月～62年5月
山口大学医学部附属病院
昭和62年6月～63年5月
山口県立中央病院
昭和63年6月～平成元年11月
山口大学医学部附属病院
平成元年12月～ 光市立病院

前任の植木篤雄先生の後、一昨年末より週1～2回診察に来ておりましたが、このたび昨年12月1日よ 常勤を命ぜられ赴任致しました。簡単に自己紹介しますと、生まれも育ちも山口市で、大学は山口県外にと思っておりましたが親孝行にも山口大学に入学。学生時代は軽音楽部と少林寺拳法部に属し、親不幸にも人より2年多く学生生活をエンジョイしました。卒業後、耳鼻咽喉科に入局。結局、山口県外に出られぬま

ま現在に致っています。

ここで診療内容について宣伝させていただきますと、診療時間は月・水・金・土が午前中、火曜は午後で、木曜は本庶正一名誉院長の診察日です。診療内容は耳鳴・難聴・めまい・アレルギー性鼻炎から頭頸部腫瘍・顔面神経麻痺まで、何かありましたらぜひ御連絡、御紹介をよろしくお願い致します。

今後、何年間この地にいるかは「教授のみぞ知る」ですが、よろしくお願い致します。

ゴルフコンペ(第8回光医歯会)

12月24日(日)

於 周南カントリー倶楽部

Name	Out	In	Gross	HD	Net	Order
光 武	47	48	95	12	83	7位
森 本	40	47	87	12	75	優勝
平 田	53	51	104	8	96	9位
佃(齒)	73	69	142	36	106	10位
竹 中	51	51	102	24	78	4位
藤 村	43	45	85	10	78	2位
守 田	45	44	89	10	79	5位
国 本	51	57	108	25	83	8位
前 田	48	47	95	17	78	3位
横 山	45	41	86	6	80	6位

平成元年 光市児童生徒の集団心臓検診結果報告書

(光市医師会学校医部会作成)

集団心臓検診実施方法・場所

平成元年6月14日～6月22日

各小、中学校保健室

山口県予防保健協会依頼一心電計2台

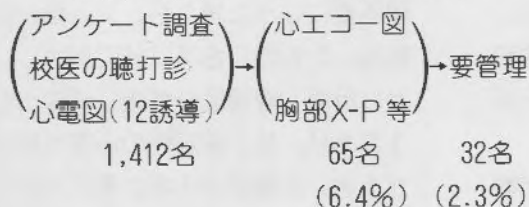
小学校1年生 595名

中学校1年生 789名

他の学年で校医が必要と認めた者 28名

計 1,412名

一次検診(無料) 二次検診(有料)



今年度心臓検診による要管理者の病名

病名	小学生	中学生	計
心房中隔欠損症術後	0人	1人	1人
心室中隔欠損症術後	0	2	2
心内膜床欠損症術後	0	1	1
動脈管開存症	1	0	1
心室中隔欠損症	2	1	3
心筋症	0	2	2
僧帽弁逸脱症候群	0	1	1
W. P. W症候群	0	4	4
心室性期外収縮	1	8	9
房室解離	0	2	2
Wencke. bach型房室ブロック	0	2	2
完全右脚ブロック	0	1	1
I度房室ブロック	0	1	1
心筋虚血	0	1	1
心室内伝導遅延	0	1	1
計	4人	28人	32人

心臓検診結果

小学校	一次検診	二次検診	異常なし又は管理不要	要管理
牛島小	1人	0	0	0
室積小	113	1	1	0
光井小	78	1	1	0
島田小	58	4	4	0
浅江小	143	6	4	2
上島田小	32	0	0	0
三井小	64	6	4	2
周防小	34	0	0	0
附属小	77	1	1	0
計	600人	19	15	4
%	100%	3.17%	2.50%	0.67%

中学校	一次検診	二次検診	異常なし又は管理不要	要管理
牛島中	0人	0	0	0
室積中	140	7	5	2
光井中	99	8	5	3
島田中	208	5	2	3
浅江中	242	19	6	13
附属中	123	7	0	7
計	812人	46	18	28
%	100%	5.67%	2.22%	3.45%

小中学生計	一次検診	二次検診	異常なし又は管理不要	要管理
小中学生計	1,412人	65人	33人	32人
%	100%	4.60%	2.34%	2.26%

まとめ及び考按

(1) 平成元年度は、小学1年生、中学1年生計1,384名及び他の学年でも学校医が必要と認めた者28名合計1,412名について心臓病調査票及び心電図検査(12誘導)を実施した。

(2) 心臓病調査に於ては、疲れやすい、息切れ、動悸等の症状のあるものは、小学生が1.5%に対して、中学生は7.1%と5倍近くも多かった。

(3) 心電図検査は、山口県予防保健協会に依頼し、6月14日より22日迄6日間、午前中各学校を廻り保健室にて実施した。

(4) 心電図の解釈は、済生会山口病院内科部長萬忠雄先生にお願いし、1週間~10日間みて頂いた。

(5) その結果を直ちに光市医師会及び市教委を通じて精密検査を要するものを選び出し各学校よりその保護者に連絡した。

そして夏休み中に近くの基幹病院に受診するよう指示した。

2学期に受診したのもあったが10月初旬には100%の管理指導表を収集することが出来た。ことに光市立病院小児科部長横山宏先生には要精密者65名中42名も検査して頂いたことに深く感謝したい。

(6) 最終結果で、小学生4名、中学生28名の計32名が新たに要管理者となった。アンケート調査票が0点であっても、要管理になった者10名も認めた。従って調査票のみでは不十分であることが判った。

(7) 折角、心臓検診して管理指導表を提出させても、学校で放置していたのでは全く意味がない。従って調査票、心電図や管理指導表を学校に常時保管し、いつで

も引出せるようにし、校医、担任、養護、保護者の四者が常に連携をとり合って、管理して欲しい。

又、主治医と十分に連携をとり定期的に検診を受けさせると共に、十分な管理の下で、出来得る範囲の運動をさせるようにして欲しい。

(8) 中学校、高校に進学する時、転校する場合は、必ず心電図表や管理指導表を^⑧として進学校、転入校に送付、持参させて欲しい。

(9) 昨年迄要管理であって今回の検診で管理不要になった者7名、又、管理区分が軽減したもの3名あり誠に喜ばしい。しかし反面、管理区分が厳しくなったもの3名あり。又、多源性の心室性期外収縮が1名、心筋症が3名いることが、管理指導上いささか気になるところである。

(10) 全員の心電図検査を実施することは、大変な手間と費用がかゝり大変であるが、A方式の必要性を考え又、少しでも突然死を予防出来るものと信じ、今後もA方式で続けて行くべきだと思う。

(福本先生の作成された報告書より抜萃)

＝ 編集後記 ＝

あけましておめでとうございます。室積の海岸から「初日の出」を眺めましたが、素晴らしいものでした。(吉村)

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	竹中昭二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社